

日本語における英語定冠詞 the の借用について: 料理サイトのデータから

若松 弘子 (筑波大学 文芸言語専攻)

1. はじめに

ある言語の語彙や構造に、言語接触を通じて別の言語の要素が入ってくることを「借用」(borrowing)と呼ぶ(Winford, 2003:12)。言語接触の研究において、内容語は借用されやすいが、機能語は借用されにくいことが指摘されてきた(e.g. Moravcsik, 1978; Muysken, 1981)。たとえば、内容語に分類される名詞は、新規技術を利用した商品(e.g.「コンピューター」)や料理(e.g.「コーヒー」「スパゲッティ」)の名前に広く借用されていることが確認できる一方、機能語に属する品詞や要素は借用の事例が多くない。少ない事例の中から例を挙げるとすれば、ケチュア語へのスペイン語の cuando(いつ)や porque(なぜなら)という接続詞、あるいは複数形マーカーの-s などの借入である(Muysken(2008: 178-183))。ここで、一般には借入されにくい機能語はどのような場合、どのような条件のもとで借入されるのか、という問いが生じる。

この問いに関して、竝木(2005)のデータを出発点にして日本語における英語前置詞の借用について一連の研究が始まっている(Shimada and Nagano (2014, 2017), 若松・島田(2017)など)。これは、料理レシピサイトの cookpad.com に掲載されたレシピタイトルをデータとしている。同様に cookpad.com からデータをとりながらも、本稿では前置詞ではなく冠詞に焦点をあて、英語の機能語である the が日本語に借用されている実態について調査し、一般化を行う。

本来、英語の the には、1) 談話の中での既出性、あるいは、2) 当該文脈の中での唯一性を表すという基本的用法がある(Eastwood, 1994:202)。本稿では、日本語に借入されている the には、1) 日本語の内容語として使われることが多く、その場合は基本的に「まさに」や「真の」という意味になる、2) 英語の機能語としての用法で使われることも、少ないながらも、さらには、3) 意味機能を持たず、音形形式のみ借入

されている場合がある、という特徴を持つことを指摘する。

先行研究により、1)や2)の特徴、つまり、多くの場合、日本語の内容語として使用されるという特徴と限定的に英語の機能語として使用されるという特徴は、日本語に借入された前置詞, in, on, with にも見られることがわかっている。例えば、「チーズinハンバーグ」の「in」のように、in は多くの場合日本語動詞の「入れる」として使われるが、「チョコレートパウンドケーキ in バレンタイン」の「in」のように、時を表す英語前置詞と同じように使われることもある。しかし、3)の用法については前置詞にはなく、the に特有にみられる現象といえる。なお、本稿では the と「ザ」や「ざ」は同等であるとみなし、以降、「ザ」や「ざ」は the で代表させる。

2. 料理サイトに見られる言語使用調査

2.1 分析対象データ

2014年秋までに cookpad に投稿されたレシピタイトルのなかで、the が含まれるか、「ざ」あるいは「ザ」の前後のいずれかに「・」のある 539 件を国立情報学研究所が提供するデータベースである「クックパッドデータ」から抽出した。別の語の一部や、固有名詞の一部として the が用いられているもの、現行のウェブサイトには掲載されていないものを除き、480 件を分析対象とした。投稿サイトへの表現をデータとしているため、生産性のある新データが分析対象となり、現在の言語使用の実態を見ることができる。

2.2 分析手順

抽出したデータに対し、Shimada and Nagano (2014, 2017), 若松・島田(2017)で提示されている分析・分類に基づいて、the を含むレシピタイトルの形態統語構造や the の意味機能の分類を行った。分類に際して、レシピ投稿者自身によるレシピ

の紹介や作り方のコツ、投稿の画像が判断材料とできる点が料理レシピサイトのデータを使用する利点である。

2.3 分析結果

データ観察から、the を含む用例は次のように分類できることが分かった。

- (1) a. the が日本語の内容語に置き換えられるタイプ。「まさに」「そのもの」「これぞ」を意味し、大半が「the 名詞」で表されている。
- b. 機能語としての英語の冠詞 the が日本語に借用されているタイプ。「名詞 the 名詞」, 「名詞 the 形容詞」の形式で出現する。
- c. 表面的に音形のみが借用されているタイプ。「the best」の the や「on the 名詞」, 「under the 名詞」の一部として表出する。

まず、(1a) のタイプは、分析対象としたデータで最も多く、70 パーセントを占めていた。(2) はこのタイプの具体例である。なお、カッコ内はレシピ投稿者自身によるレシピの紹介文からの抜粋である。

- (2) a. THE 豚丼
[これぞ豚丼!! ご飯が美味しく食べられますよ。]
- b. THE 手抜き飯! 冷凍グラタンをご飯
[もう本当にずぼら飯(๑→๒←)]
- c. THE 抹茶マフィン
[「外サク中ふわあ」の王道抹茶マフィン。]
- d. THE 和風! 白のマーボー豆腐
[一言で言えば・・・和風のマーボー豆腐です。]
- e. THE・餃子!!
[なあって事ないフツーの餃子です。でも美味しいのでお箸が止まらない♪]
- f. The♡から揚げ

- [本当にただのから揚げ。だけど美味しい!]
- g. THE! 豆腐プリン 簡単 安うま!
[簡単で安うまな豆腐プリン!]
 - h. The・Simple かぼちゃパスタ
[かぼちゃと牛乳があればできるパスタ。]

(2) に観察されるように、the は後続する名詞句について「いかにも」、「まさに」や「真の」という内容語で言い換えられるような強調の意を持っている。また、(2d, e) のようにレシピ名がレシピ「そのもの」を表すようなときに使用される場合も多い。さらに、形態的に特徴的なのは、(2e, f, g, h) に見られるように、the と後続する要素の間に「・」や「!」や「♡」などのピクトグラムが挿入されている場合があることである。ピクトグラムは構成素の区切りを明示的にする文法要素であることが Shimada and Nagano (2014) で指摘されているが、the の一語としての独立性を明確にすることで、機能語というよりは内容語としての用法をわかりやすくしているものと考えられる。また、the の直後に後続する要素はほとんどが名詞で、具体的な料理名が多いが、(2d, h) のように「和風」、Simple のほか「簡単」、「ずぼら」など状態を示す語が続くこともある。

まとめると、(1a) の the は日本語の「まさに」や「これぞ」などの語彙に相当するものとして用いられている。(2f) では Simple という英語形容詞の前に the が置かれているが、simplest になっていないことも日本語として the が用いられていることを示唆していると思われる。

なお、このような the の用法はレシピタイトルという名づけの文脈から離れた環境でも観察された。(3)の発話での the は「いかにも」という語彙と置き換えが可能であろう。

- (3) 「ザ 酔っぱらいつてかんじだね」
(宴会でお酒を飲んだため、上機嫌で顔が赤く、呂律が回らない人について 2017 年 12 月 9 日)

次に、「名詞 the 名詞」あるいは「名詞 the 形容詞」の連鎖で表現される(1b) のタイプを検討する。具体例は次の通りである。

- (4) a. スコーン The Basic
- b. 男のニョッキ THE ゴルゴンゾーラ
- c. さつまあげ the リメイク!
- d. 簡単★ホタテパスタ the シンプル
- e. ボンゴレ・ザ・ジャイアント

このタイプは、出現頻度が少なく、レシピタイトル中の the の使用例の 2 パーセントにすぎなかった。本稿では、これらの例における the は英語の冠詞として借用されている例と考える。なぜならば、それらは(5)に見られる英語の the と平行的と思われるからである。

- (5) a. John the Baptist (洗礼者ヨハネ)
- b. Alexander the Great (アレキサンダー大王)
[<http://www1.odn.ne.jp/xenom/kanshi.box/kanshi37.html>]
- c. The Transformers: The Movie
- d. Garfield: The Movie

英語の定冠詞 the には、(5) のように、the の右に来る要素が the の左にくる要素を特定する機能がある。たとえば (5a) は、不特定の John ではなく Baptist の John であることを意味している。(5c, d) は英語での映画のタイトルであるが、同様の用いられ方になっており、(5c) はマンガや玩具のトランスフォーマーではなく、映画の「トランスフォーマー」を指す。

日本語の料理レシピタイトルの(4)においても、the がこのように用いられているといえる。例えば、(4a)のスコーンは、Basic、つまり、基本形のスコーンなのである。(4b) においては、ニョッキがゴルゴンゾーラ味のニョッキというように特定されている。また、(4e) のボンゴレ・スパゲッティは量において「ジャイアントな」ボンゴ

レ・スパゲッティであり、レシピ名でそのことを表しているのである。

日本語に借入されているこの the は、レシピタイトル以外でも見つけることができる。英語の(5c, d)と同じように、テレビ番組や映画のタイトルでも使われているのである。

- (6) a. 『超入門! 落語 THE MOVIE』
[<http://www4.nhk.or.jp/rakumov/>]
- b. 『ポケモン・ザ・ムービーXY ^{リング}光輪の超魔神 フーパ』

さらに 3 つ目のタイプとして、日本語における the の借用のタイプは(1c) に挙げたように、表面的に the を用いているものの、英語の the に対応する語彙的および機能的な意味はないと判断されるものもある。このタイプは分析対象としたレシピタイトルの 28 パーセントを占めていた。(7a, b) は双方ともサイト上のレシピ名であるが、「ザ・ベスト」と「ベスト」の意味の違いを見出すことはできない。

- (7) a. シンプル・イズ・ザ・ベスト もやし
- b. シンプル is ベスト! もやしナムル

同様に、(8a, b, c) の「on the 名詞」や「in the 名詞」に含まれる the は音韻形式としては表示されているが、統語・意味素性の具現ではないと考えられる。

- (8) a. チョコ on the 食パン
- b. シュウマイ in the soup
- c. 小倉トースト ON THE アイス

まず、例えば、「食パン(8a)」や「soup (8b)」は (1a) タイプの「まさにその」食パンやスープという意味ではないと判断できる。

さらに、(9)における内容語として借入されている on や in と同様に、(8)の前置詞は「のせる」や「入れる」と

いった日本語の動詞におきかえ可能である。

- (9) a. 納豆のスクランブルエッグ on トースト
b. 卵 in お味噌汁♥
c. *イングリッシュマフィン on バナナ*

(8a)は「チョコのせ食パン」という意味で、「チョコ」と「on」が構成素をなし、「食パン」を修飾している。(9a)と同じ修飾構造である。また、(8c)は「アイスのをせた小倉トースト」という意味で、「小倉トースト」が右側から修飾されていて、やはり、バナナをのせたマフィン、という意味を持つ(9c)と同じ修飾構造である。もし、(8)の前置詞の用法が(9)のそれと同じだとすれば、(9)に the がないことは(8)にも the の後続を特段必要としないことを意味し、それは音韻的に存在するだけとなる。つまり、(8)と(9)には統語的、意味的に違いを見出すことが困難であることから、(8)に含まれる the は音形形式のみの借用であるといえる。

機能を持たない the は、レシピ以外にも見られる。例えば、(10a)と(10b)に意味的差異はなく、(10a)の「ストップ・ザ」のザは音形のみ借用である。

- (10) a. 「ストップ・ザ・交通事故」県民運動
[<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk15/stop-the-kotsujiko.html>] [accessed 2017/12/05]
b. ストップ交通事故ファイナル作戦
[<https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/manage/contents/upload/56acde4ac233a.pdf>]

3. おわりに

本稿では、レシピサイトのデータを用いて、現在の日本語における英語前置詞の the の借用が3つに大別されることを示した。1つめは、the が「これこそ」等に相当する語彙的意味を持ち、日本語の内容語として用いられるタイプである。2つめは、使用頻度は少ないものの、機能語としての英語の the が継承されているタイプである。「名詞 the 名詞」の表現がこれに該

当し、the の右の名詞が the の左の名詞の種類を特定する役割を担っている。3つめは、音韻形式だけが借用されているタイプで、意味や機能はないと判断されるものである。ただ、(8)や(9)で、冠詞のあるなしが右からの修飾が優位になるか左からの修飾が優位になるかという点で差をもたらすことになるかどうかは不明である。例えば、冠詞を後続しない on は右からの修飾と左からの修飾で頻度が半々であることは知られているが、冠詞があることで違いが出てくるかはわかっていない。これは今後の興味深いテーマである。

謝辞

本研究ではクックパッド株式会社と国立情報学研究所が提供する「クックパッドデータ」を利用した。

参考文献

- Eastwood J. (1994) *Oxford Guide to English Grammar*, Oxford University Press, Oxford.
- Moravcsik E. A. (1978) “Universals of Language Contact” In J. E. Greenberg (ed.) *Universals of Human Language* 1. Stanford: Stanford University Press, 95-122.
- Muysken, P. (1981) “Creole Tense/Mood/Aspect Systems: the Unmarked case?” in P. Muysken (ed.), *Generative Studies on Creole Languages*, 181-99, Dordrecht: Foris.
- Muysken, P. (2008) *Functional Categories*, Cambridge University Press, Cambridge.
- 竝木崇康 (2005) 「日本語の新しいタイプの複合語『リンスイインシャンプー』と『リンスイ入りシャンプー』」大石強ほか編『現代形態論の潮流』くろしお出版, 1-19.
- Shimada, M. & A. Nagano (2014) “Borrowing of English Adpositions in Japanese,” Abstract of LAGB (Linguistic Association of Great Britain) Annual Meeting 2014.
- Shimada, M. & A. Nagano (2017) “Use of English Prepositions as Japanese Predicates: A Challenge to NLP”『言語処理学会第23回年次大会発表論文集(2017年3月)』
- 若松弘子・島田雅晴 (2017) 「料理サイトのデータから言語接触理論を考える：前置詞 with の借入について」(ポスター発表) IDR ユーザーフォーラム 2017, 国立情報学研究所(NII) (2017年12月4日)
- Winford, Donald (2003) *An Introduction to Contact Linguistics*, Blackwell Publishing, Malden.